

●1年生の「古文」、『枕草子』の全8時間のうちの7時間目。「雪のいと高う降りたるを(第二百八十段)」が題材で、それまでに学んだ敬語の知識を手がかりに、登場人物の人間関係や当時の人々のもののものの情趣について考えた。(P.37に単元の指導計画を掲載)

峯先生の担当する『国語』では、文法事項などを整理するプリントが課題として1日1枚与えられ、生徒は自宅で行い、授業の冒頭10分間は、生徒が教師役になってプリントの答え合わせや解説を行う。この日のプリントの内容は漢文の書き下し文と現代語訳。生徒によるミニ授業が終わると、峯先生による授業が始まった。

熟考と対話の中で
生徒に気づきを委ねながら、
ものの見方や感じ方を深める

峯先生のアクティブ・ラーニング

「何を考えるのか」「何を使うのか」
学びの起点を生徒に委ねる

峯先生が自身の授業において重視しているのが、主体的な学習の実現だ。本時の授業プリントには、素材文である『枕草子』第二百八十段とともに「傍線部はどういうことを言っているのか」といった問いが書かれていたが、肝心の傍線部がどこかは素材文には示されていない



長崎県立佐世保西高校

峯 悦子 みね・えつこ

教職歴15年。同校に赴任して2年目。国語科担当。自身の高校時代の経験を土台にして、初任時より生徒の対話を重視した授業を展開。現在、研修部に所属し、地域課題について考える探究学習の設計と推進に取り組む。

長崎県立佐世保西高校

◎校訓は「自主自律」「積極敢為」「親和協調」。単位制による多様な選択科目と習熟度別授業で生徒の進路実現を支援する。より高いレベルの授業を希望する生徒のために、1年次より「ウィングクラス」を編成。ハンドボール部、ソフトボール部などの部活動も盛んである。

◎設立 1964(昭和39)年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約240人

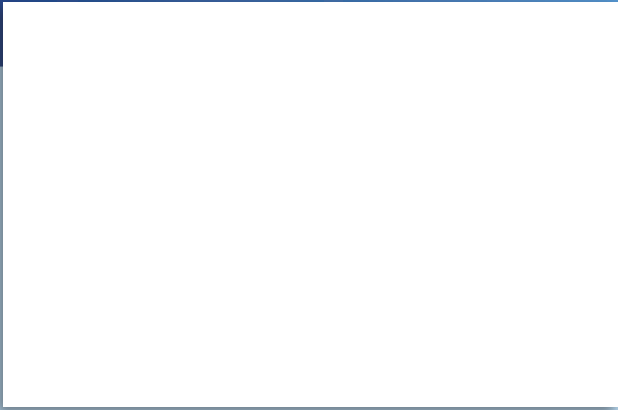
◎2018年度入試合格実績(現役のみ)

国公立大は、京都大、岡山大、広島大、九州大、長崎大などに109人が合格。私立大は、東海大、関西大、近畿大、西南学院大などに延べ215人が合格。

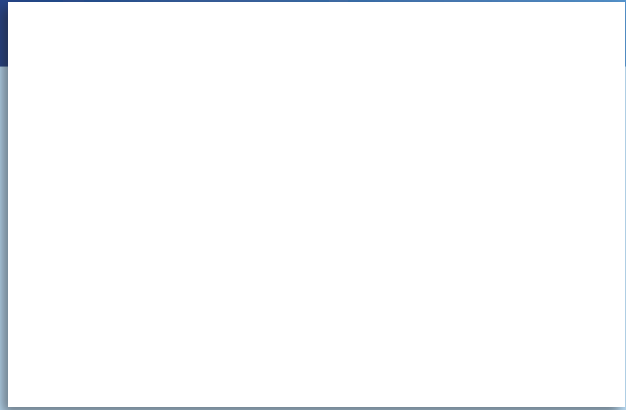
◎URL

<http://www.news.ed.jp/sasebonishi-h/>

*プロフィールは2019年3月時点のものです。



4人グループで意見交換。熟考の時間の途中、峯先生から「分からない人は教科書や電子辞書、文法書を参考にして」と声がかかっていたため、出てきた生徒の意見やその根拠は多様だった。約8分経過したところで生徒は席を移動し、新たなグループで話し合いを続けた。別のグループの意見に生徒たちから「そうなの?」「すごい!」と声が上がっていた。



「雪のいと高う降りたるを」を読み、内容上の核となる箇所を探させ、その結果について隣同士で意見交換をさせた。内容を大まかに捉えた段階で、授業の目標などが書かれたプリントを使って、授業前の段階での理解を自己評価させた。それから峯先生が素材文の核となる箇所を明らかにし、そこでどうということが述べられているかを約10分間個人で考えさせた。

た。平安時代の文学を読み解く際のカギとして、本単元でこれまで学んできた「ものの情趣」を念頭に、「素材文で問いにすべき箇所はどこか」から生徒自身に考えさせるわけだ。

「文章の核となるところを考えさせることは、自分で課題を設定することと同義であり、主体的な学習の出発点です。主体的に課題を設定する力は、社会で求められる資質・能力ですから、授業でも大切にしています」

本時の素材文で傍線部となるべき箇所、つまり「ものの情趣」への理解が問われる一文は、「この宮の人にはさべきなめり」だ。峯先生は生徒に個人、ペアでそれがどこかを考えさせてから答えを明らかにし、さらにそこでどういうことが述べられているかを個人で読み解かせる。峯先生は「分からない人は、文法書、辞書などを参考にしてもよいですよ」と声をかけているが、何を参考にするかを生徒に選択させるのも峯先生が普段から心がけていることだ。

「最初から私が『教科書の35ページを見て』などと示すと、生徒はそこにヒントがあるという前提で見るとしよう。しかし、ヒントの隠し場所から自分で探せば、『あつ、これも!』といった気づきの感動を得られますし、『本当にこれかな?』とさらに考え続けることになります」

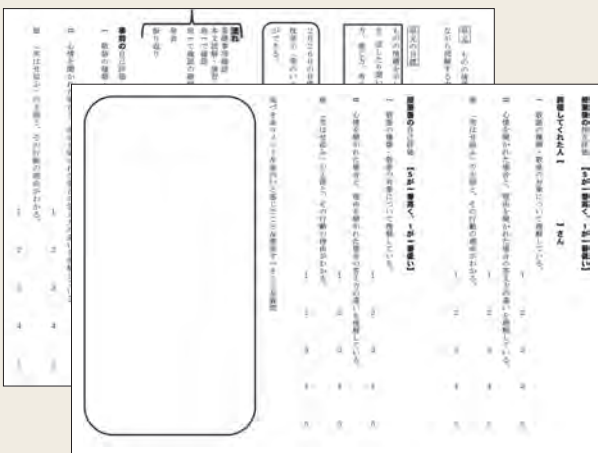
個人の熟考の時間、峯先生は机間巡視で理解があいまいな生徒に、「さべきなめり」の「な」が「なるめり」であることなど、文法上のポイントを伝えた。そうして、傍線部を自分なりに

解釈させてからグループワークに移った。

峯先生は、傍線部の直訳にたどり着いたグループに対して、「『さべき』ふさわしい」と考えたのはだれ?」「どのような行動に対して?」「中宮様が笑ったのはなぜ?」と聞く。生徒の1人が気づきを得た表情が見えたら、峯先生は次のグループへと移動し、全体の読解を深めた。

授業では、生徒は素材文を一読する冒頭の段階と授業の最後の段階とで自己評価を行う。授業の最後の段階では、自己評価に加えて、グループの仲間からも評価をもらった上で、授業の感想や復習すべきことまでを書かせている。

「授業後のみ自己評価を行っていた時は、『難しかった』『家で読み直す』といった浅い内容の感想が多かったのですが、事前評価と他者評価



本時の授業の目標が書かれたプリントで、授業前の自己評価、さらに授業後の自己評価と他者評価が行われる（実物は表裏1枚で印刷）。

*学校資料をそのまま掲載。

授業冒頭に自己評価を行ったプリントの裏面で、本時の目標が達成できたかどうかを授業前と同じ指標で自己評価することに加えて、グループのメンバーからの評価ももらい、「家で学習すべきこと」を書いて授業は終了した。授業で取り組んだプリント類は、成績評価の対象となる。プリントはいったん回収して峯先生がチェックし、SHRの時に返却される。

元のグループに戻り、聞いてきたことを共有しながら、グループとして答えをまとめた。峯先生が「前に出て発表したい人は？」と聞くと、1人の生徒が手を挙げて発表。その後、同じグループの生徒が「補足があります」と発言し、さらに説明を続けた。その後、峯先生が「なぜ、そう言えるの？」と全員に問いかけ、生徒との対話の中で読み解きが進んだ。

思考の活性化・深化への配慮

を加えてからは、『主語がつかめなかったので、接続助詞に気をつけながらも一度読んでみる』などと、具体的な行動計画を書ける生徒が増えました。授業の前後で自分の理解がどう深まったか、グループの仲間と比べて何が不足しているかを丁寧に振り返るようになったからでしょう」

個人の熟考を保障し、多様な視点からの再考を促す

深まりのあるグループワークを実現するために峯先生が大切にしているのが、授業中、1人で熟考する時間を確保することだ。また、グループワーク時の机間巡視においては、意見が収束しそうなグループを見つけては、「なぜ、そう思ったの？」などと問いかけ、根拠を深掘りさせる。また、この日の授業では、グループでの話し合いの途中で席替えをして、ほかのグループの話し合いを聞く場面があった。

「根拠があいまいなグループがいくつかあったので、ほかのグループの考えとその根拠を聞くことで、多様な視点から考えを深めさせました」

場づくりへの配慮

発言する機会と

聞く機会の両方を確保する

年度当初など、グループワークがあまり活発

に進まない段階では、生徒にマーカーを持たせて「今日は黄色のマーカーを持っている人が仕切り役になって！」と指名し、「話し合いを仕切る生徒」を決めることもある。そうすることで、グループワークでの最初のひと言が出やすくなる。また、グループ内で国語が得意な生徒が一方的に話すことがないように、「自信のない人から話して」と促すこともある。それは、発言する機会と聞く機会をバランスよくすべての生徒に与えるための配慮だ。

成果と課題

生徒の意見を丁寧に評価して安心して自己表出できる場をつくる

「感性が乏しい」などと言われることもある現代の生徒だが、高校生に語らせる時間を多く取る中で、むしろ発想は豊かで、視点もユニークだと峯先生は気づいたという。しかし、1年間かけて育てた生徒も、2年次以降、人前で間違えたくないという気持ちが強くなり、生徒はあまり話さなくなる傾向があると峯先生は言う。

「授業中に主体性は高まって、やはり生徒には正解を教えてもらいたいという気持ちがあります。だからこそ、答えが1つではないテーマで話し合い、そこで出てきた意見を教師が皆の前で丁寧に評価してあげて、間違ったり人と違ったりすることを恐れずに思ったことを言える雰囲気を作りたいです」

単元の指導計画

【教科・科目】国語・国語総合 【分野・単元】古文 【テーマ・作品】『枕草子』 【設定時数】全8時間の中の7時間目

【単元目標】ものの情趣を示したり、敬語が用いられたりした伝統的な文学作品を、人物関係を捉えながら読解でき、話したり、聞いたり、話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行って、ものの見方、感じ方、考え方を広げることができるようになる。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	『枕草子』「春はあけぼの」の古語「をかし」「あはれなり」等を用いて四季を表現する。	<ul style="list-style-type: none"> 清少納言の言う、四季のよさを読み味わうとともに、「をかし」「あはれなり」の意味の違いを理解した上で、自身の感じる四季の豊かさを古語で表現できる。 【知識、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】	<ol style="list-style-type: none"> 基礎事項プリントの生徒解説。 「春はあけぼの」を個人で読解。 「をかし」と「あはれなり」の違いを各自で考える。 「をかし」「あはれなり」の違いを踏まえた上で、自分自身が思う四季のよさを表現。 班で共有し、班の中で一番よい作品を選出。 	【主体的な学び】 想像を働かせて、自分なりにできるだけ古語で表現するように促す。帰宅後、絵を描いたり、インターネット等で調べたりして自分の表現を高める工夫をするよう促す。 【対話的な学び】 その場の取りまとめ役をマーカーを使って決める。班で協力できているかを確認する。 【深い学び】 「をかし」を使うか、「あはれなり」を使うか考える際に、理由や例を挙げて考えるよう指示する。班の話し合いにおいても「なぜ」を使って質問するよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 自己評価シート、ワークシートの点検
2	古語「をかし」「あはれなり」等を用いて四季を表現したものの内発表と全体発表。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が書いた古文と班員の書いた古文を読み比べることを通して、表現を吟味できる。 「をかし」と「あはれなり」の違いを例を挙げて説明できる。 【知識、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】	<ol style="list-style-type: none"> 基礎事項プリントの生徒解説。 前時の続きとして、班で自分の書いた作品を読み合う。 班を変えて、別の班で発表を行う。 元の班に戻り、違う班で聞いてきた表現としてよかった点を発表し合う。 それを基にして、表現の推敲を行い、よりよい作品へと変える。 班で1つずつ全体に発表する。「をかし」「あはれなり」の説明も加える。 10班分の発表を聞いた上で最も優れていた班を投票により決定する。 教師が文法的な間違い等を最小限に指摘しつつ、感想を述べる。 振り返りを行う（ワークシート）。 	【主体的な学び】 よりよい表現となるよう、自分で表現を再度工夫するように促す。「をかし」「あはれなり」の意味の違いを、感覚ではなく言葉で表現できるようになることが、本当に理解できたことにつながると理解させる。 【対話的な学び】 班での話し合いを設定。その場の取りまとめ役をマーカーを使って決める。班で協力できているかを確認する。個人で思考する時間を一定時間与えることで、自分の考えを持った上で話せるようにする。 【深い学び】 班を1回変える。元の班に戻り、表現を練り直させる。全体に発表をさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 自己評価シート、ワークシートの点検
7	『枕草子』「雪のいと高う降りたるを」の読解Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 敬語を手がかりに、本文の作者と定子のやり取りを理解できる。 中宮に仕える女房に求められるものについて理解し、記述で表現できる。 自分の考えを根拠を持って説明することができる。 【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】	<ol style="list-style-type: none"> 基礎事項プリントの生徒解説。 個人で初読の文章を何も見ずに読解。 設問に個人で取り組む。 班で話し合う。 全体で共有。 振り返り。 	【主体的な学び】 授業前自己評価、授業後評価による見通しと、家に帰ってからの振り返り内容の確認。問題演習を通した個人読解。班のメンバーに説明させる。 【対話的な学び】 班での話し合いを設定。その場の取りまとめ役をマーカーを使って決める。班で協力できているかを確認する。個人で思考する時間を一定時間与えることで、自分の考えを持った上で話せるようにする。 【深い学び】 初読の文章を自力で読解させる。発問のレベルを高く設定する。班で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ワークシートの点検（記述内容） 相互評価、授業前評価→授業後評価の変化
8	『枕草子』「雪のいと高う降りたるを」の読解Ⅱ・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本文を敬語を手がかりにして読解することができる。 清少納言が取った行動の意味を理解できる。 ほかの女房たちが言った言葉の意味を理解できる。 重要単語が習得できている。 【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】	<ol style="list-style-type: none"> 基礎事項プリントの生徒解説。 班で前時の復習。 文法事項を押さえながら本文読解。 まとめ。 	【主体的な学び】 授業前自己評価、授業後評価による見通しと、家に帰ってからの振り返り内容の確認。 【対話的な学び】 ペアで話す時間の設定。話すための個人思考の時間の設定。 【深い学び】 まとめ用記述問題。	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ワークシートの点検（記述内容） 相互評価、授業前評価→授業後評価の変化

*峯先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全8時間分は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け」をご覧ください。

生徒の声



山口京子さん 峯先生の授業は、1人で考える時間があつた上でみんなでお話合つたので、自分でもじっくり考えられ、さらに人と話すことで理解が深まりました。ひらめいたりする感覚があつて、とても楽しいです。私は、中学校の時はペアで話すようにと言われても、話す内容がうまく整理できず、黙ってしまつてしまつてしまつた。でも今は、自分の意見も言えるし、人の意見と照らし合わせながら、より深い意見を言えるようになってきている気がします。古典の文章を読むと、現代の私たちが考えられないようなことを思いついたり、感じたりしていたことに驚きます。そして、私もそんなふうな目の前のものを感じることができるようになりました。自分自身に対する見方が豊かになりました。苦手だった国語が、1年間で得意教科になりました。

田島萌絵さん 今日は、最初のグループでの話し合いで自分なりに答えが出せていたつもりでした。でも、ほかのグループの話の聞いたら、自分がかつた部分の理解があいまいだったのがよく分かりました。私は、中学校の頃から古典も現代文も苦手で、自宅では教科書の文章やプリントの内容をそのままノートに書き写すような勉強しかしていませんでした。でも、峯先生の授業で、評論の内容を図や短い文章でまとめ直したり、気になることをインターネットなどで調べて、ノートに書きためたりすることを始めてから、自分で考える習慣が身につけてきた気がします。授業でも、グループワークなどで周りの人と話す機会があるので、いろいろな観点で考えられる力があつたように思います。